

授業概要

「ことばの獲得」をテーマに、専門的な文献の輪読を通して、基礎的な知識や研究の方法、報告の仕方等を学びます。

春期は子どもの第一言語（母語）の獲得プロセスを考え、言語習得理論の基礎を学びます。秋期は第二言語習得を中心に自分（たち）でテーマを設定し、いくつかの文献を読み、まとめて報告する活動に取り組みます。活動を通して、人にわかりやすく伝えるスキルも磨きます。

輪読する文献は第1回の授業で履修者と話し合っ決めてますが、現時点では下記のような本を候補として考えています。（リクエストや質問等があればぜひゼミ説明会でお聞かせください）

『言葉をおぼえるしくみ 母語から外国語まで』今井むつみ・針生悦子（ちくま学芸文庫）
『子どもに学ぶ言葉の認知科学』広瀬友紀（ちくま新書）

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	「読む」こと・輪読の進め方	第17回	文献報告①
第3回	言語習得研究の基礎	第18回	文献報告②
第4回	文献輪読①	第19回	文献報告③
第5回	文献輪読②	第20回	グループ・研究テーマの設定
第6回	文献輪読③	第21回	文献の探し方
第7回	個人テーマの設定に向けて	第22回	グループ研究①
第8回	文献輪読④	第23回	グループ研究②
第9回	文献輪読⑤	第24回	発表の仕方
第10回	文献輪読⑥	第25回	グループ研究③
第11回	レポートの作成について	第26回	グループ研究④
第12回	レポート作成演習①	第27回	研究発表①
第13回	レポート作成演習②	第28回	研究発表②
第14回	レポート作成演習③	第29回	研究発表③
第15回	春期まとめ	第30回	秋期まとめ

到達目標

- ・「ことばの獲得」に関する基本的な知識を得ることができる。
- ・言語習得に関する論文や研究の基本的な枠組み（方法）を知ることができる。
- ・テーマに沿って文献をまとめたり、ディスカッションしたりするスキルを身につけることができる。

履修上の注意

- ・第一言語（母語）の話から始めますが、基本的には第二言語（外国語）の獲得について考える授業です。
- ・演習科目では、出席はもちろん、授業中の発言や振り返り記述の質と量が重要になります。

予習・復習

- ・文献を読んでいてわからないことは自分で調べたり、担当教員に質問したりしてください。
- ・個人やグループでの発表の前には、授業時間外にメンバーや担当教員との準備・打ち合わせが必要になります。

評価方法

- ・毎回のリフレクション（振り返り） 30%
- ・個人やグループでの発表、授業内の発言等 40%
- ・課題レポート 30%

テキスト

第1回の授業で、履修者と話し合っ決めて決定します。

授業概要

この演習では、小学校教員を志望する学生を対象に、教育法規に関する学習を進めることにする。日本は法治国家である以上、教育の世界においても法規は大変重要であり、それゆえに教員採用試験でも最頻出領域である。

この演習を履修する時点で、現行教育法規について十分に学習する機会を得ていない（「教育法規」を履修しないとまとまった機会が得られない）ため、主要な教育法規について広く浅く理解していくことを主たる目的とする。未習事項が多いため、担当者による講義が中心となるが、質疑応答をはさみつつ理解を深めていく。一定のまとめりごとに問題演習の機会を設け、知識の定着を図ることにする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（ゼミの進め方）	第 16 回	いじめ・不登校に関する規定（1）
第 2 回	教育基本法（1）	第 17 回	いじめ・不登校に関する規定（2）
第 3 回	教育基本法（2）	第 18 回	障害を持つ子どもに関する規定
第 4 回	教育基本法（3）	第 19 回	児童虐待・人権に関する規定
第 5 回	学校の種類と目的に関する規定（1）	第 20 回	懲戒・体罰に関する規定（1）
第 6 回	学校の種類と目的に関する規定（2）	第 21 回	懲戒・体罰に関する規定（2）
第 7 回	就学に関する規定	第 22 回	問題演習③-1
第 8 回	問題演習①-1	第 23 回	問題演習③-2
第 9 回	問題演習①-2	第 24 回	教職員に関する規定（1）
第 10 回	学校運営に関する規定	第 25 回	教職員に関する規定（2）
第 11 回	学校保健・安全に関する規定	第 26 回	教職員に関する規定（3）
第 12 回	学校給食に関する規定	第 27 回	教育委員会に関する規定
第 13 回	教材・著作権に関する規定	第 28 回	問題演習④-1
第 14 回	問題演習②-1	第 29 回	問題演習④-2
第 15 回	問題演習②-2	第 30 回	まとめ

到達目標

- ・教育法規に関して基本的な知識を得ることができる。
- ・現行教育法規が持ってしまっているさまざまな問題点（だから法規は改正される）を理解することができる。

履修上の注意

- ・法規の文章は、正確さを求めるがために、恐ろしく回りくどい表現が用いられるので、粘り強く格闘すること。
- ・教育法規は小学校採用試験では頻出だが、他の試験ではほとんど見かけない。それゆえ、小学校教員を志望する人以外には、費用対効果が見込めない内容となるので、その点を理解した上で履修すること。

予習・復習

- ・適宜問題演習の機会は設けるが、授業後に自主的に教員採用試験問題を解いてみるとよい。知っていさえすればあっさり正解してしまうという、冷静に考えればごく当たり前の事実を体感してほしい。

評価方法

- ・法規の内容の理解度（50%）、輪講における成果（50%）

テキスト

- ・教科書名：教職教養の要点理解（2024 年度版）
- ・著者名：時事通信出版局（編）
- ・出版社名：時事通信社
- ・出版年：2022 年

授業概要

日本と世界の童話や昔話などから代表的な物語について指導するとともに、研究発表のやり方についても指導します。一人一人が自分の興味に従って童話や昔話を選び、作品について及び教育・保育上の意義・取り上げ方などについて、調査・考察を重ねて研究発表を行います。また、聞き手も、発表内容について意見・感想・疑問点等を述べ、意見交換や討論を行います。この発表や意見に対して、指導を行います。卒業論文を書くことにつながるように、発表内容をレポート化することや隣接分野の書籍を読むことも指導します。

また、図書館・博物館などの外部施設見学も行います。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	世界の昔話研究「大きなカブ」
第 2 回	日本の昔話概説	第 17 回	世界の昔話研究「ジャックと豆の木」
第 3 回	日本の昔話研究「桃太郎」	第 18 回	世界の昔話研究 ペロー
第 4 回	日本の昔話研究「浦島太郎」	第 19 回	世界の昔話研究 グリム
第 5 回	日本の昔話研究「花咲か爺さん」	第 20 回	世界の童話概説
第 6 回	日本の昔話研究「猿蟹合戦」	第 21 回	世界の童話研究 イソップ
第 7 回	日本の昔話研究「かちかち山」	第 22 回	世界の童話研究 アンデルセン
第 8 回	日本の童話概説	第 23 回	世界の童話研究 ルイス・キャロル
第 9 回	日本の童話研究 小川未明	第 24 回	世界の童話研究 C・S・ルイス
第 10 回	日本の童話研究 浜田廣介	第 25 回	世界の童話研究 ローリング
第 11 回	日本の童話研究 宮沢賢治	第 26 回	施設見学 1 (国際子ども図書館等)
第 12 回	日本の童話研究 新美南吉	第 27 回	施設見学 2 (相田みつを美術館等)
第 13 回	日本の童話研究 松谷みよ子	第 28 回	施設見学 3 (ちひろ美術館等)
第 14 回	世界の昔話概説	第 29 回	施設見学 4 (東京子ども図書館)
第 15 回	世界の昔話研究 「三匹の子豚」	第 30 回	施設見学 5 (アンデルセン公園)
		第 31 回	施設見学 6 (三鷹の森ジブリ美術館)

到達目標

- ①日本と世界の代表的な童話・昔話について知り、童話・昔話等の物語を学ぶための基礎的な知識を養うことが目標です。
- ②研究調査及び研究発表の方法を身につけ研究発表ができることと、同時に他の発表者から学ぶ姿勢も身につけることが目標です。

履修上の注意

授業態度、授業参加度を重視します。授業中に、毎回、交互に研究発表を行い、その内容を評価します。聞き手は、発表についての意見・感想・疑問等を述べ、それも評価に加えます。また、施設見学レポート等、提出物も評価に含めます。多数の様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を欠席した場合は、単位を放棄したものとみなします。

予習・復習

研究発表を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不十分ですので、事前の自主学習が必要となります。また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための復習も必要となります。

評価方法

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（レポート等）
研究発表 40% レポート 40% 受講態度 20%

テキスト

教材・参考書等は、授業中に指示します。

授業概要

「子どもと家族」をとりまく社会状況や問題について、家族社会学の知見を用い、さまざまな観点から学びます。同時に3年次以降の専門的な研究をすすめるうえで必要となる、論文作成のための知識や作法を身につけます。

前期は、家族社会学の基礎的な文献をとりあげ、テキストの読み解き方、参考文献や関連資料の探し方、レジュメの作成方法、プレゼンテーションの方法、質疑応答におけるマナーやルールなど基本的なことを学び、各自がひと通り経験します。後期はそれらを活かして、仲間と協力しながらテーマセッションやグループ研究に取り組みます。

また2年次以降の実習において必要となる文章力の向上を目指し、文章実践のトレーニングも組み込む予定です。

授業計画

第1回	オリエンテーション～ゼミの作法	第16回	後期のすすめ方
第2回	ゼミメンバーとの交流	第17回	文章実践トレーニング1
第3回	アカデミックスキルズって何？	第18回	文章実践トレーニング2
第4回	レジュメの作成と報告の方法	第19回	文章実践トレーニング3
第5回	テキストを読み解く1	第20回	テーマセッション1
第6回	テキストを読み解く2	第21回	テーマセッション2
第7回	テキストを読み解く3	第22回	テーマセッション3
第8回	参考文献の探し方	第23回	テーマセッションまとめ
第9回	関連資料の探し方	第24回	グループ研究1
第10回	文献報告に挑戦1	第25回	グループ研究2
第11回	文献報告に挑戦2	第26回	グループ研究3
第12回	文献報告に挑戦3	第27回	グループ研究4
第13回	文献報告に挑戦4	第28回	プレゼンテーションの方法
第14回	文献報告に挑戦5	第29回	研究成果報告会
第15回	後期に向けて	第30回	まとめ～3年生にむけての課題

到達目標

- ・「子どもと家族」をとりまく現代社会の問題について理解を深めることができる。
- ・3年次以降の専門的な学習に必要な知識や態度を身につけることができる。
- ・自分の研究関心のありかを明らかにすることができる。
- ・文章を書く練習をし、レポート作成や実習日誌作成のための力をつけることができる。

履修上の注意

楽しく意欲的に学ぼうとする態度を求める。

課題や報告に積極的に取り組むことを求める。

仲間と活発に議論する態度を求める。

予習復習

報告者は、文献を読み、レジュメを作成するなど、報告準備をする。

報告者以外の参加者は、文献を読んだうえで、質問やコメントを準備してくる。

テーマセッションやグループ研究においては、各自が毎回、作業を分担する。

評価方法

出席がもっとも重要（50%）。さらに、ゼミでの報告態度や報告内容（30%）、議論への参加態度（10%）、課題レポート（10%）等で、総合的に判断する。

テキスト

取り上げるテキストや文献については、初回のゼミで参加者の興味・関心を確認したうえで、相談して決める。

授業概要

算数・数学教育の基礎について理解をするとともに、将来、小学校教諭として算数を教えたり、幼稚園教諭として遊びを通して数概念や図形概念を育成したりすることを想定して、本演習を行う。(小学校免許のための「算数」15回では、数や量を中心に学習することしかできないため) 図形領域を中心に演習を行う。

春期は、平面図形教具を使う体験を行い、その意味や意義については、学習指導要領や小学校教科書・幼稚園要領などを調べ、子どもの活動や授業がイメージできるようにする。秋期は、教育現場での活用事例を調べたり、関係する論文・書籍を読解したりして発表をする。このことで、読解力や文章力およびプレゼン能力を養う。また、情報化に伴い注目されるようになった、データの活用やプログラミング活用について学ぶ。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	幼稚園での玩具活用事例の発表
第 2 回	数概念形成教具：キズネール棒	第 17 回	小学校低学年での教具活用授業の発表
第 3 回	教科書や学習指導要領等との関連	第 18 回	小学校中学年での教具活用授業の発表
第 4 回	分数概念形成教具：パターンブロック	第 19 回	小学校高学年での教具活用授業の発表
第 5 回	教科書や学習指導要領等との関係	第 20 回	数学の表現体系、教具とのかかわり
第 6 回	平面図形概念形成：パターンブロック	第 21 回	図形概念の理解の様相とのかかわり
第 7 回	教科書や学習指導要領等との関係	第 22 回	ワープロ演習
第 8 回	平面図形概念形成教具：タングラム	第 23 回	「算数教育における数学史的問題」読解
第 9 回	教科書や学習指導要領等との関係	第 24 回	「算数教育における数学史的問題」読解
第 10 回	平面図形概念形成教具：ジオボード	第 25 回	「算数教育における数学史的問題」読解
第 11 回	教科書や学習指導要領等との関係	第 26 回	データの活用領域の概観と基本
第 12 回	数・図形のための教具の種類とその意義	第 27 回	データの活用領域の児童の活動事例
第 13 回	数・図形のための玩具の種類とその意義	第 28 回	プログラミング活用授業から学ぶ
第 14 回	幼・小連携について	第 29 回	プログラミング演習
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- 教具や玩具を使った活動を通して、その意義について、自分のことばで述べることができる。
- 教具や玩具を使った活動と、学習指導要領・幼稚園要領や小学校教科書との関係について理解できる。
- 関連した活用事例を探すことを通して、文献検索の基礎を体験することができる。
- 論文・書籍の読解力や文章力およびプレゼン能力を身に付けることができる。

履修上の注意

- ゼミのメンバーと協力して、共通のテーマに関する追求活動をする姿勢を求める。
- したがって、遅刻や欠席をしないようにし、楽しく意義のある時間となるよう努めなければならない。
- 本演習は、将来小学校教諭や幼稚園教諭として、子どもの算数・数学概念形成について、勉強したい人のためのものであることに留意すること。

予習・復習

指定した文献を購読してプレゼン資料を作成したり、授業内で時間が足りなかった活動を行ったり、文献資料を探したりするために、授業外で学参すること。

評価方法

文献購読の発表内容 (30%)、課題の追求姿勢とそのレポート (30%)、共通テーマ活動へ協力と追求姿勢 (40%)、授業態度も含めて総合的に評価をする。

テキスト

- 教科書名：算数教育における数学史的問題
- 著者名：平林一栄
- 出版社名：皇学館大学出版部
(研究室にあるものを貸与します。)

授業概要

子どものこころや行動の理解、発達と援助に関わる様々なテーマを取り上げ、文献講読およびディスカッションを通して学びを深めていく。また、他者の意見を尊重し、自分の考えを的確に述べる力を身につけることを目指す。春期は、各自の関心のあるテーマについて調べて発表を行い、ディスカッションを通して考察を深め、まとめる力、発表する力、考える力を養う。秋期は、各自の興味・関心に基づいてグループでテーマを決めて、調査、観察などを行って研究発表の実践に取り組み、3年次を見据えて研究計画立案につなげることを目的とする。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	演習テーマ概観①子どもの発達と援助	第 17 回	心理学の研究手法と分析①
第 3 回	演習テーマ概観②子どもの発達と援助	第 18 回	心理学の研究手法と分析②
第 4 回	文献講読と討論：子どもの心の理解①	第 19 回	研究課題の探索と文献収集①
第 5 回	文献講読と討論：子どもの心の理解②	第 20 回	研究課題の探索と文献収集②
第 6 回	文献講読と討論：情緒と社会性の発達①	第 21 回	研究課題の決定と分析方法検討
第 7 回	文献講読と討論：情緒と社会性の発達②	第 22 回	グループによる研究課題の構想発表
第 8 回	文献講読と討論：発達をうながす環境①	第 23 回	レポート作成の方法
第 9 回	文献講読と討論：発達をうながす環境②	第 24 回	グループ研究①
第 10 回	文献講読と討論：つまずきと援助①	第 25 回	グループ研究②
第 11 回	文献講読と討論：つまずきと援助②	第 26 回	グループ研究③
第 12 回	文献講読と討論：愛着と子ども虐待①	第 27 回	グループでの研究発表と討論①
第 13 回	文献講読と討論：愛着と子ども虐待②	第 28 回	グループでの研究発表と討論②
第 14 回	文献講読と討論：保育者・対人援助職のメンタルヘルス	第 29 回	グループでの研究発表と討論③
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- 子どもと家族の発達と支援に関する諸問題について、関心を持って取り組み、理解することができる。
- 他者の意見を尊重すること、自分の考えを述べることができ、積極的に討論することができる。
- 自分の関心・問題意識をもとにテーマを設定し、他者と協力して調べてまとめ、発表することができる。

履修上の注意

- グループワークやディスカッションを行うため、他者を尊重して協力するよう努めること。
- 主体的な取り組みが求められ、かつ、グループワークも多いため、遅刻・欠席はしないこと。やむを得ない場合は必ず連絡を入れること。
- 学外に施設見学や調査に出向く場合がある。

予習・復習

資料の収集、調査、レポート作成、発表準備などのため、授業時間外での学習が必要である。

評価方法

授業・討論への取り組み（30%）、発表内容・課題レポートの充実度（30%）、期末レポート（40%）によって総合的に評価する。

テキスト

適宜、資料を配布する。

授業概要

この演習では、保育や教育の現場で必要とされる子どもの発達に関する知識や理論について、文献を通して学ぶ。春期は、発達心理学の論文の精読を通して、論文の読み方、研究法の種類について理解する。秋期は、前期で学んだことをもとに、グループで興味・関心のあるテーマについて先行研究を調べ、発表を行う。また、個人発表では、次年度の専門演習に向けた研究テーマを探し、研究計画を立てることに挑戦する。

授業ではグループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、活発な意見交換を行う。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	研究法の種類	第 17 回	前期の復習
第 3 回	論文の構成、検索の仕方、読み方	第 18 回	グループで研究テーマを探す
第 4 回	論文精読（観察法①）	第 19 回	文献検索
第 5 回	論文精読（観察法②）	第 20 回	グループ発表の準備
第 6 回	論文精読（観察法③）	第 21 回	グループ発表①
第 7 回	論文精読（実験法①）	第 22 回	グループ発表②
第 8 回	論文精読（実験法②）	第 23 回	グループ発表③
第 9 回	論文精読（実験法③）	第 24 回	個人で研究テーマを探す
第 10 回	論文精読（質問紙法①）	第 25 回	文献検索
第 11 回	論文精読（質問紙法②）	第 26 回	個人発表の準備
第 12 回	論文精読（質問紙法③）	第 27 回	個人発表①
第 13 回	その他の論文①	第 28 回	個人発表②
第 14 回	その他の論文②	第 29 回	個人発表③
第 15 回	春期のまとめ、意見交換	第 30 回	秋期のまとめ、振り返り

到達目標

- ・文献講読を通して、保育や教育の専門職として必要な子どもの発達に関する知識や理論を知ることができる。
- ・「発達心理学研究」など様々な論文の精読を通して、論文を読むことに慣れることができる。
- ・自分の興味・関心のあるテーマについて先行研究を調べ、問題意識を持ち、研究計画を立てることができる。

履修上の注意

- ・遅刻や欠席は原則としてしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。
- ・授業中は積極的に発言すること。

予習・復習

- ・発表者は事前にパワーポイントまたはレジュメを作成し準備をする。
- ・それ以外の参加者にも、ワークシートやレポートなどが課される。

評価方法

- ・授業への参加態度（20%）、発表（40%）、ワークシートやレポートなどの提出物（40%）で評価する。

テキスト

- ・授業内で指示する。
- ・その他必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

この授業では、音楽理論・知識への理解を深めると共に、子どもの音楽的活動の指導、支援に必要な技術、視点、方法論について学びます。

春期では、音楽を理解するために必要となる楽典、音楽教育の理論と方法について、さらにピアノ等楽器演奏技術とその方法について理解を深めます。秋期では、春期での学習を基に、各自が興味のある演奏方法をもって音楽作品を探求していきます。一つの音楽を深く研究することで、その良さ、面白さ、自身の課題に気づき、さらには子どもに音楽を伝える観点や方法、そのアイデアへと繋がっていくことが考えられます。演奏と理論、双方からのアプローチをもって、自身の興味関心に即した研究を進めていきます。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	音楽の基礎知識①	第 17 回	研究テーマと構想
第 3 回	音楽の基礎知識②	第 18 回	音楽教材の探求と実践①
第 4 回	音楽の基礎知識③	第 19 回	音楽教材の探求と実践②
第 5 回	音楽の基礎知識④	第 20 回	音楽教材の探求と実践③
第 6 回	音楽教育の理論と方法 文献購読①	第 21 回	音楽教材の探求と実践④
第 7 回	音楽教育の理論と方法 文献購読②	第 22 回	研究の中間発表
第 8 回	音楽教育の理論と方法 文献購読③	第 23 回	音楽教材の探求と実践⑤
第 9 回	音楽教育の理論と方法 文献購読④	第 24 回	音楽教材の探求と実践⑥
第 10 回	楽器を用いた演奏の技術と方法①	第 25 回	音楽教材の探求と実践⑦
第 11 回	楽器を用いた演奏の技術と方法②	第 26 回	プレゼンテーションの方法
第 12 回	楽器を用いた演奏の技術と方法③	第 27 回	研究のまとめ①
第 13 回	楽器を用いた演奏の技術と方法④	第 28 回	研究のまとめ②
第 14 回	楽器を用いた演奏の技術と方法⑤（演奏発表会）	第 29 回	研究成果発表会
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	全体の振り返り、まとめ

到達目標

- ・文献購読を通して、現代の音楽や教育に関する諸問題への理解を深めることができる。
- ・楽典を演奏の技術として直感的に理解し、実践することができる。
- ・自分の考えを言語化し、まとめることができる。
- ・音楽を探求する力を身に着け、感じたことを主体的に表現することができる。

履修上の注意

- ・音楽分野の諸問題、教育、演奏方法に興味関心がある方を前提とします。
- ・楽器演奏の練習と準備、課題への取り組み、グループ活動への参加に主体的に取り組むこと。
- ・遅刻、欠席をしないこと。

予習・復習

- ・ピアノ等楽器演奏の練習、発表、各課題への準備を行うこと。
- ・楽典、音楽的な理論について自主的に復習し、確実なものとする。

評価方法

・学習姿勢、協働的な学びの姿勢 30%、レポート 20%、演奏発表 20%、研究成果発表 30%で総合的に評価する。

テキスト

- ・受講生の興味関心を確認したうえで、授業内で指示します。

授業概要

「児童虐待」「貧困」「ヤングケアラー」「ひとり親家庭」など、子どもや若い世代におきている問題を把握し、理解を深め、興味・関心を高めていく。春期では「子供の生活状況調査の分析」報告書と「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書を中心に子どもの貧困と被虐待児の状況について学び、解決に向けて必要な取り組みについて検討する。秋期には児童養護施設での支援やケアについての文献を読み、学びを深める。さらに各自の興味がある問題を取りあげ、解決や専門職のかかわりについて考えていく。また、履修者の希望や興味・関心にもとづき、児童養護施設、障害者施設あるいは子ども食堂といった、支援の現場への見学も実施したい。

キーワード：子どもの貧困、児童虐待、児童養護施設での支援・ケア、地域子育て支援、子ども食堂

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第16回	
第 2 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第17回	児童養護施設での支援についての文献
第 3 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第18回	児童養護施設での支援についての文献
第 4 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第19回	児童養護施設での支援についての文献
第 5 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第20回	児童養護施設での支援についての文献
第 6 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第21回	個人発表にむけて
第 7 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第22回	個人発表
第 8 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第23回	個人発表
第 9 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第24回	個人発表
第10回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第25回	個人発表
第11回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第26回	個人発表
第12回	報告書まとめ / 見学の事前学習	第27回	見学の事前学習
第13回	施設あるいは支援現場見学（学外）	第28回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第14回	施設あるいは支援現場見学（学外）	第29回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第15回	見学まとめ / 春期まとめ	第30回	見学まとめ / 秋期まとめ

到達目標

- ・子どもや若い世代に起きている問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考える力をつけていくことができる
- ・報告書を読むことで統計情報の読み方を理解し、報告書全体の理解を深めていくことができる
- ・発表する力、発言する力、文章をまとめる力をより向上させていくことができる

履修上の注意

- ・子どもや若い世代に起きている問題や解決について、興味・関心があることを前提とする。
- ・報告書の内容について順番を決めて発表する。さらに、その内容についてグループディスカッションを行うので、積極的な参加を求める。
- ・遅刻、欠席はしないこと。

予習・復習

報告書は発表にあたっていなくても、指定された範囲について事前によく読んでおくこと。
その他、必要に応じて指示する。

評価方法

発表の内容・充実度 40%、期末レポート 40%、授業への参加度（発言回数、内容など）20%をふまえ、総合的に判断する。

テキスト

報告書は Web に公開されているものを用いる。
その他、必要に応じて、指示する。または授業時に資料を配布する。